



OpenOffice.org 3.2

新機能ガイド ver 0.1

Copyright

The contents of this Documentation are subject to the Public Documentation License Version 1.0 (the "License"); you may only use this Documentation if you comply with the terms of this License. A copy of the License is available at <http://www.openoffice.org/licenses/PDL.html>

The Initial Writer of the Original Documentation is Makoto Takizawa Copyright (C). All Rights Reserved.

The Writer of [Original Article](#) in Appendix 2 is Ariel Constenla-Haile Copyright (C). All Rights Reserved.

目次

Copyright.....	2
新機能ガイド.....	4
概要.....	5
全般.....	5
起動速度の高速化.....	5
OpenDocument Format 形式の対応強化.....	5
Microsoft Office形式の対応強化.....	6
その他ファイル形式の対応強化・セキュリティ修正.....	6
フォントのサポート強化.....	7
国際・言語対応の強化.....	7
Writer ワードプロセッサ.....	7
Calc スプレッドシート.....	8
Impress プレゼンテーション.....	9
Base データベース.....	9
Draw 図形描画.....	9
Math 数式エディタ.....	10
テーブル関数の変更.....	11
Writer関数.....	11
Calc関数.....	11
Impress関数.....	11
Draw関数.....	12
アップグレードの注意事項.....	13
標準設定の保存 ODFバージョンの変更.....	13
Media Wiki形式の出力.....	13
Calc関数および値の扱いの変更.....	13
OpenOffice.org のロードマップ.....	14
ユーザーインターフェイス.....	14
動向.....	14
パフォーマンス.....	15
動向.....	15
その他機能.....	15
Writerの動向.....	15
Calcの動向.....	16
Impress/Drawの動向.....	16
Baseの動向.....	16
リファレンス.....	17
付録1 APIの変更.....	18
付録2 複数のバージョンを動作させる方法.....	19
インストール.....	19
EXEファイルの展開.....	19
MSI管理インストール.....	19
ユーザー設定.....	19
アンインストール.....	20

新機能ガイド

OpenOffice.org 新機能ガイドでは、OpenOffice.org 3.2 の新機能について説明します。このドキュメントは、OpenOffice.org のアップグレードを検討中の方を対象としています。



本ドキュメントは、OpenOffice.orgの利用者の皆様にアップグレード判断の参考となる情報を提供することを目的として、2009年12月11日現在の最新開発情報を元に作成しています。

本ドキュメントに記載されるいかなる情報も、アップグレードを奨励を目的としたものではありません。アップグレードに関する最終決定は、利用者様ご自身の判断でされますようお願い致します。

本ドキュメントへの情報・資料の掲載に関しては細心の注意を払っておりますが、正確性および完全性等について一切保証するものではありません。

本ドキュメントに含まれる情報もしくは内容を利用することで直接・間接的に生じた損失・損害に対し執筆者が一切責任を負わないことについて、利用者は本ドキュメントを利用することで同意したものとします。詳細は[ライセンス](#)をご覧ください。

概要

OpenOffice.org は、世界で注目されているビジネスユーザーを対象とした統合 Office ソフトです。きれいなドキュメント、スプレッドシート、プレゼンテーションの作成、データベース管理をすばやく簡単に行えます。

2010 年 1 月にリリース予定の最新版の OpenOffice.org 3.2 では、標準ファイル形式として採用している国際規格 ODF への対応強化、グラフ機能の強化、Microsoft Office 2007 形式をはじめとするファイル互換形式への対応強化、より効率よくドキュメント作成をするために起動速度の高速化、メニュー見直しなど、42 件の機能追加、167 件の機能強化、1200 件以上の不具合修正を実施し、より使いやすくなりました。

全般

起動速度の高速化

OpenOffice.org 3.2 では、一年前にリリースした OpenOffice.org 3.0 と比べて起動速度が 46% 高速化しました。

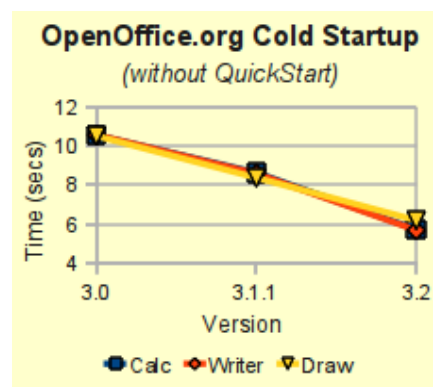

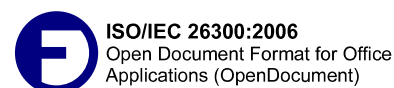


図 1: 起動速度グラフ

-  この数値は、OpenOffice.org のクイック起動機能を無効にした場合です。クイック機能を使用するとより早く起動します。詳しくは、測定結果の詳細は、[Performance Report for Startup](#) をご覧ください。

OpenDocument Format 形式の対応強化

OpenOffice.org では、今現在作成されているオフィス・ドキュメントおよび、これから作成されるドキュメントの相互運用性を確保するために国際標準規格 ODF (OpenDocument Format for Office Applications) を標準ファイル形式として採用しています。



OpenOffice.org 3.2 では、下記の点を強化しています。

- 数式の相互運用性を高めるため、OASIS ODF/ OpenFormula ODF 1.2 仕様により厳密に対応
- ODF ドキュメント整合性チェック 機能を追加

ドキュメント整合性チェックは、ODFドキュメントが ODF 仕様を準じているかを確認します。

- Microsoft Office OLE オブジェクトサポート

今まで Microsoft Office 2007 SP2 で出力した ODF ファイルに含まれるグラフなど OLE オブジェクトを表示することができませんでした。OpenOffice.org 3.2 よりグラフなどの OLE オブジェクトを読み込み、表示できるようになりました。



ODF(OpenDocument Format for Office Applications)は、構造化情報標準促進協会(OASIS)[1]および、国際標準化機構(ISO)と国際電気標準会議(IEC)[2]の合同技術委員会 ISO/IEC JTC 1/SC 34 によって、ISO/IEC 26300 として標準規格に認定されています。

[1]http://www.oasis-open.org/committees/tc_home.php?wg_abbrev=office

[2]http://www.iso.org/iso/iso_catalogue/catalogue_tc/catalogue_detail.htm?csnumber=43485



標準保存ファイル形式および 保存バージョンは、オプション設定(ツール->オプション)の「標準のファイル形式とODF設定(読み込み/保存->全般)」で 設定できます。初期設定は、「ODF 1.2拡張」です。

Microsoft Office 形式の対応強化

- パスワード付 Microsoft Office 2007 ファイルの読み込みサポート

パスワード設定されていない Microsoft Office 2007 ファイルの読み込みに加え、パスワード設定をしたファイルも読み込めるようになりました。

- フォームコントロール、ピボットテーブルを含む Microsoft Excel 2007 の読み込みサポート

従来 Microsoft Excel 2007 のフォームコントロールなどを含むファイルを読み込んでフォームコントロールは表示されることはありませんでした。OpenOffice.org 3.2 より読み込み、表示できるようになりました。

- Microsoft Word/Excel 97/2000/XP ファイル形式でパスワード保護付き保存をサポート

従来 Microsoft Word/Excel 97/2000/XP ファイル形式で保存するときには、パスワードを設定することができませんでした。OpenOffice.org3.2 より、パスワードを設定できるようになりました。

その他ファイル形式の対応強化・セキュリティ修正

- SYLK ファイル形式の対応強化

エクスポートするときのセミコロンとダブルクォーテーションの埋め込む取り扱いを変更しました。SYLK ファイル形式に書き込むとき、埋め込むダブルクォーテーションを 2 重にしてもエスケープできない場合、セミコロンを 2 重にしてエスケープするようになりました。

- ファイル自動認識機能を強化

AportisDoc 形式および PocketWord 形式を自動的に判定し、ファイルの種類を選択せずに読み込めるようになりました。

フォントのサポート強化

- OpenType フォント対応強化

TrueType フォントに加え、PostScript ベースの OpenType フォントの表示、PDF 出力、印刷に使用できるようになりました。

- Graphite フォントサポート

拡張 TrueType である Graphite フォントの表示に対応しました。



Graphite フォントとは、SIL インターナショナルの開発した高度な組版を実現する [Graphite システム](#) 対応フォントです。

- 国際・言語対応の強化

- 日本語の氏名順に対応

OpenOffice.org では、氏名を名前、名字の順で扱っていましたが、日本の名字、名前の順で扱えるようになりました。

- 多くの言語・地域に対応

Oromo_Ethiopia [om-ET], Uyghur_China [ug-CN], Ancient Greek [grc-GR], Somali_Somalia [so-SO], Sorbian, Lower [dsb-DE] and Upper [hsb-DE], Asturian_Spain [ast-ES], Yiddish_Israel [yi-IL], Arabic (Oman) [ar-OM], Sardinian_Italy [sc-IT], and Quechua (Ecuador) [qu-EC]

Writer ワードプロセッサ

- Media wiki 形式エクスポート機能削除

Media wiki 形式のエクスポート機能を Wiki Publisher 拡張機能と統合し、OpenOffice.org 標準機能から削除しました。

- 代替テキストに対応

オブジェクト(画像・枠・OLE オブジェクト)に代替テキストを設定できるようになりました。

- ダイアログやメッセージの改良

テキストを表に変換するダイアログやオートコレクトのメッセージオプション設定のメッセージなどが変更し、それに従い機能改良しました。



図 2: 代替テキスト

Calc スプレッドシート

- 新しいグラフの追加

線と原点、線と前のデータ系列の線の間が塗りつぶす「塗りつぶしレーダー」、x軸、y軸に加えて3つ目の値を泡(バブル)の大きさとして表現する「バブルチャート」の二つのグラフを追加しました。



図 4:塗りつぶしレーダーグラフ

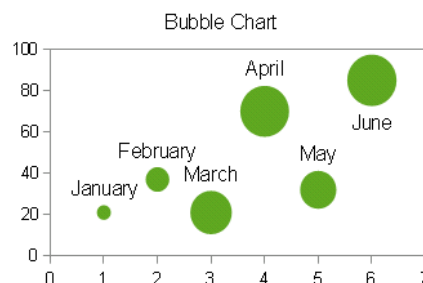


図 3:バブルチャート

- ユーザービリティの向上

グラフの全コンテキストメニュー、メニューを根本的に見直、書式設定ツールバーを追加結合したセルに他の結合したセルの貼り付け、行や列の挿入や削除、複数のセルを同時に参照方式の切り替えや選択して外枠を設定することができるようになり、今まで以上に効率的に作業ができるようになりました。

- ソート(並べ替え)機能強化

並べ替え時の「並べ替え範囲」ダイアログの追加し、列を選択して「並べ替え」を実行したとき、隣の列が空白セルでない場合、「並べ替え範囲」ダイアログが表示し、並べ替えの範囲を広げるかの選択ができます。また標準ツールバーの「昇順」または「降順」ボタンをクリックして並び替えを行った場合にも、セルの書式設定もデータと共に並び替えられるようになりました。

- 標準フィルタの機能追加

設定可能な条件数が3個から8個へ追加し、フィルタ条件の「関係」で「...を含む」「...を含まない」「...で始まる」「...以外で始まる」「...で終わる」「...以外で終わる」が追加しました。

- 隠しセルの値や無効な値の扱いの改良

今まで隠しセルにあった値は、グラフで使用することが出来ませんでした。また、空白のセルや文字などグラフを作成する上で有効でない値がセルで設定されている場合は、値がない物として扱われていました。これによりグラフが途切れたりすることがありました。この機能により0として扱うのか、無視するのかなどを選択できるようになり、セルの選択範囲に無効な値がある場合でも連続したグラフを作成することが出来るようになりました。

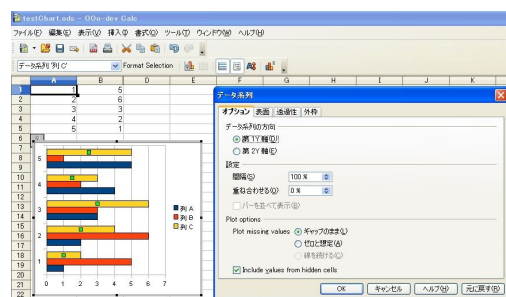


図 5:欠陥値の扱いの改良

- 数値文字列の扱いの改良

式を解釈するときに、変換が可能な場合は数値文字列を数値に変換し、変換が不可能な場合は”#VALUE!”を返すように変更しました。

(例)

3.1 の場合:="12345"+0 →12345,="12345.6"+0 → 12345.6

3.2 の場合: ="12345"+0 →12345 ="12345.6"+0 →#VALUE!

- セル内での改行コードを文字コードとして保持

今まで、セル内の改行は、関数や式から参照する場合や他のアプリケーションにコピーする場合には、スペースに変換されていました。改行を文字コードで保持することで、改行を式や関数で利用できるようになりました。なお、改行文字は、CHAR(10)関数でも挿入可能です。



この変更は、全関数、式に影響します。

Impress プレゼンテーション

- コメント機能追加

プレゼンテーションに付箋紙を貼り付けられるようになりました。

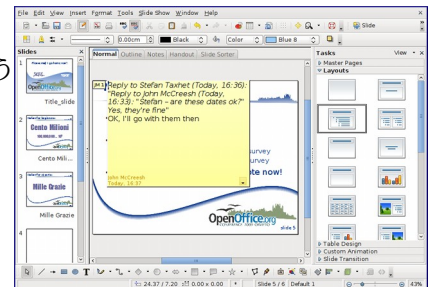


図 6:ノート機能

Base データベース

- ズーム機能に対応
- クエリーのコピーが簡略化
- コピーテーブルウィザードの強化

Draw 図形描画

- コメント機能の追加

プレゼンテーションに付箋紙を貼り付けられるようになりました。

Math 数式エディタ

- 操作性の向上
メニューをよりわかりやすい様に変更

テーブル関数の変更

Writer 関数

変更はありません。

Calc 関数

変更が行われています。今回変更された関数は、上位互換性です。従来のファイルは、今まで通り、使用いただけます。

関数	関数説明	内容
CONVERT_ADD (数値,元単位,変換後単位)	設定ファイルの単位変換表に基づいて、数値の単位を変換します。	対応強化 単位変換表に単位を追加し、より多くの単位変換が可能になりました。 詳しくは、
HYPERLINK (アドレス,セルテキスト)	ハイパーリンクを作成します。	仕様変更 セルテキストが数値であるとき、数値で扱う様に変更しました。
NORMDIST(x, μ , σ ,モード)	正規分布の値を返します。	仕様変更 引数4 モード:オプションに変更しました。省略された場合は、1(累積分布関数の値)が選択されます。
LOGNORMDIST(x, μ , σ ,モード)	対数正規分布の値を返します。	仕様変更 引数2: 引数3: 引数4 モード:オプションが追加しました。省略された場合は、1(累積分布関数の値)が選択されます。
UNICODE (日付文字列)	文字列の最初のUnicode文字に対応するコード番号を返します。	追加
UNICHAR(数値)	コード番号に該当するUnicode文字を返します。	追加

Impress 関数

関数に対応していません。

Draw 関数

関数に対応していません。

アップグレードの注意事項

標準設定の保存 ODF バージョンの変更

OpenOffice.org 3.2 から ODF の標準設定の保存バージョンが「1.2」から「1.2 拡張」に変更されます。OpenOffice.org 3.1 と同じバージョン(ODF 1.2)で保存したい場合は、インストール後、オプション設定(ツール->オプション)の「標準のファイル形式と ODF 設定(読み込み/保存->全般)」で設定してください。

Media Wiki 形式の出力

OpenOffice.org 3.2 から Media Wiki のエクスポート機能が削除されます。そのため、Media Wiki 形式で保存できません。OpenOffice.org 3.1 と同様に Media Wiki 形式で保存したい場合は、Sun Wiki Publisher を利用ください。

Calc 関数および値の扱いの変更

OpenOffice.org 3.2 から文字列数値の扱い、文字列のあった場合の計算方法が変更されています。そのため、影響を受ける可能性があります。

- 文字列数値が計算対象に含まれる場合、従来自動的に除外して計算していましたが、3.2 から数値変換し計算します。そのため、結果値が変わることがあります。
- 文字列(数値文字列以外)が計算対象に含まれている場合、従来自動的に除外して計算していましたが、3.2 より、結果値が計算不可(#Value)になります。
- 従来、セル内での数式・関数を利用した場合、改行の代わりにスペースが返されていましたが、3.2 から文字コードを返すようになります。そのため、スペースを意識した使用をしていた場合結果が変わる可能性があります。

OpenOffice.org のロードマップ

OpenOffice.org のリリース予定は下記の表の通りです。課題一覧によると、次期 3.3 では、2009 年 12 月 13 日現在 27 件の機能追加、120 件の機能強化、777 件の不具合修正を予定しています。最新情報は、課題データベース(IssueTrack)を参照ください。

	2010				2011
	1	2	3	4	1
OpenOffice.org 3.2.0	2010年1月				
OpenOffice.org 3.2.1	2010年3月				
OpenOffice.org 3.3.0		2010年6月			
OpenOffice.org 3.3.1			2010年9月		
OpenOffice.org 3.4.0				2010年12月	
OpenOffice.org 3.4.1					2011年3月

表 1:リリース予定

ユーザーインターフェイス

OpenOffice.org では、2008 年 6 月から開始したユーザー・エクスペリエンス・プロジェクトを中心にユーザービリティや生産性の向上などのため、ユーザーインターフェイスの改良を行っています。

動向

OpenOffice.org では、ユーザーのアンケートや利用データ、プロトタイプなどの情報を元に分析を行い、緩やかに開発し OpenOffice.org に成果を取り込んでいます。

OpenOffice.org 3.2 では、グラフ機能周辺を中心として、メニューなどが改善され、より少ない操作で、目的の操作ができるようになっています。

OpenOffice.org 3.3 に向けて、引き続き各メニュー、ダイアログの改良を行っています。

特に目玉になるのは、従来の単純な印刷ダイアログから、印刷プレビューや詳細印刷設定ができる印刷ダイアログ改良(図 8:印刷ダイアログ)、Impress 周辺のナビゲーションなどの操作性、メニュー、ツールバー(図 7:スライド追加のモックアップ)の改良開発です。(こちらをプレゼンテーションを参照ください。)

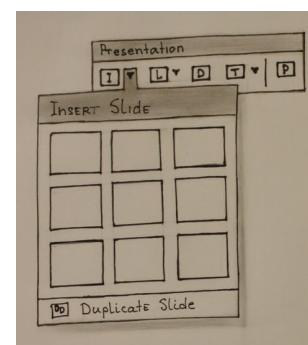


図 7: スライド追加のモックアップ

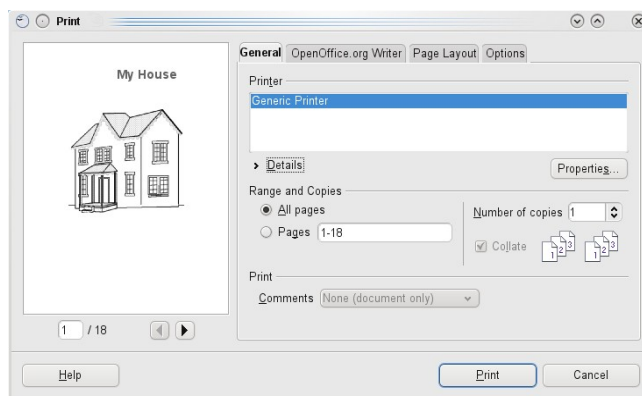


図 8:新印刷ダイアログ

また、OpenOffice.org 3.3 からは、ODF 付きのアイコンへの変更を予定しています。(図 8: 変更予定のアイコン)

OpenOffice.org では、OpenOffice.org 4.0(リリース未定)をメインターゲットとして、今後も OpenOffice.org の利便性、生産性の向上に向けて、改良をし続けます。

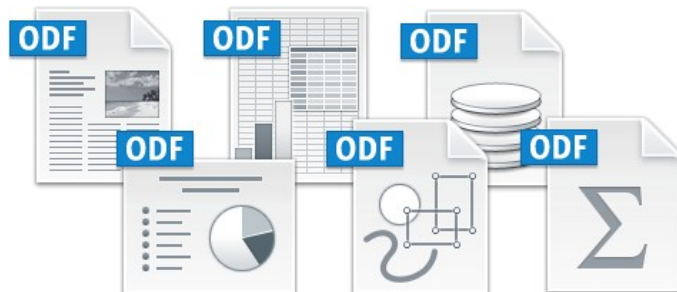


図 9:変更予定のアイコン

パフォーマンス

OpenOffice.org では、パフォーマンス向上についての取り組みをパフォーマンスプロジェクトおよび各開発チームで行っています。

動向

OpenOffice.org パフォーマンス向上に向けて各種パフォーマンス分析を行い、その結果を元に開発をしています。OpenOffice.org 3.0 に比べ、OpenOffice.org 3.2 では、格段に OpenOffice.org をより効率的にご利用いただくことができるようになりました。現在、OpenOffice.org 3.3 に向けて、パフォーマンスプロジェクトでは、設定関連や各アプリケーションの改良を実施しています。

最新の動向については、パフォーマンスプロジェクトおよび各プロジェクトをご覧ください。

その他機能

Writer の動向

Writer では、リリース時期は未定ですが、ファイルの読み込み、書き出し機能のパフォーマンスの向上、ユーザビリティ向上、メタデータサポート、箇条書きと番号付けの改良、CJK 向け文字ユニット機能、文字数行数機能の改良、アクセシビリティの改良などに取り組んでいます。

Calc の動向

Calcでは、グラフ機能の強化、OASIS ODF への対応強化、ファイル読み込み機能強化、ユーザービリティの強化、パフォーマンスの向上を中心として開発をしています。OpenOffice.org 3.2では、バブルチャートなどのグラフの追加や Office Open XML ファイル形式への対応強化、各種機能改良により使いやすくなりました。

現在 OpenOffice.org 3.3 に向けて、グラフ中に図形描画オブジェクトをサポートする機能や Phonetic 関数の開発が進められています。

リリース時期は未定ですが、今後、等高線グラフ、補助円グラフ付き円グラフ、補助棒グラフ付き円グラフなどのグラフの追加、セル書式の拡張、MS Office Open XML 読み込み機能強化などを予定しています。詳しくは、[こちら](#)のプレゼンテーションを参照ください。

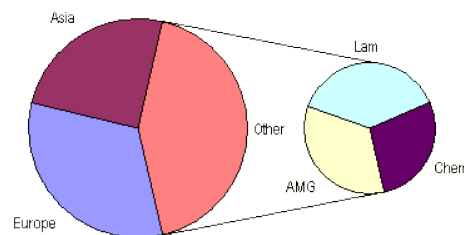


図 10:補助円グラフ付き円グラフ

Impress/Draw の動向

Impressでは、ファイル読み込み機能強化、ユーザービリティの強化、パフォーマンスの向上を中心として開発をしています。OpenOffice.org 3.2では、ノート機能が追加され、共同作業がしやすくなりました。

現在 OpenOffice.org 3.3 に向けて、パフォーマンスの向上、Office Open XML ファイル形式への対応強化、Bitmap ファイル形式への対応強化などを実施しています。

リリース時期は未定ですが、今後 Intelligent Groups (MS Smart Art の様な機能)、SVG (スケーラブル ベクター グラフィックス) ファイル形式のサポートなどを予定しています。

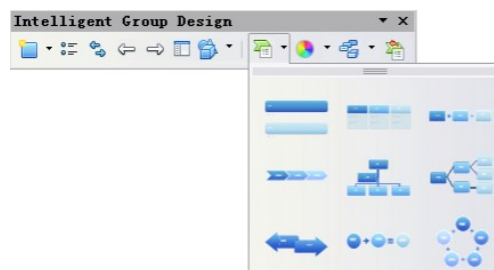


図 11: Intelligent Groups (仕様書草案より)

Base の動向

Baseでは、ユーザービリティの強化、レポート機能強化などを中心に開発しています。現在、OpenOffice.org 3.3 に向けて、SQL-Editor への検索・置換機能追加、ベースエンジンを HSQLDB 1.8 から 1.9 へのアップグレードなどを実施しています。

なお、HSQLDB 1.9 の新機能については、<http://hsqldb.org/web/features190.html> を参照ください。

リファレンス

- OpenOffice.org
<http://www.openoffice.org/>
- The OpenOffice.org Annual Conference
<http://marketing.openoffice.org/conference/>
- OpenOffice.org 3.2 Beta New Features
http://www.openoffice.org/dev_docs/features/3.2/beta.html
- OpenOffice.org Release note - OOO320_m6
http://development.openoffice.org/releases/OOO320_m6_snapshot.html
- その他、各プロジェクトサイト、メーリングリストなど
- OpenOffice.org Wiki
<http://wiki.services.openoffice.org/wiki/>
- OpenOffice.org 3.2 Feature Freeze Testing
http://wiki.services.openoffice.org/wiki/JA/translation/Feature_Freeze_Testing_3.2
- その他、各プロジェクトページ
- OpenOffice.org 課題データベース
<http://qa.openoffice.org/issues/>
- OpenOffice.org 関係者 Blog
<http://www.openoffice.org/editorial/blogs.html>
- OpenOffice.org performance improvements
http://katana.oooninja.com/w/openoffice.org/performance_improvements

付録 1 API の変更

OpenOffice.org 3.2 関係する API 変更のお知らせ一覧です。詳細は、[EIS](#)の「API 変更のお知らせ」を参照ください。

id	PostedOn	Title
4557	2009/09/14 15:48:14	new: services.css.text.InContentMetadata, css.text.textfield.MetadataField
4556	2009/09/10 15:28:45	SfxMedium::GetStorage has now additional parameter.
4555	2009/09/10 11:06:45	ODFVER_LATEST added to enum ODFDefaultVersion
4554	2009/09/10 10:54:59	New interfaces to access annotations in documents
4545	2009/09/07 9:24:33	resource compiler: NumericFormatter: new property "NoThousandSep"
4530	2009/09/04 13:43:40	asinh() and acosh() replacement functions in :rtl::math
4529	2009/09/04 13:30:36	erf() and erfc() replacement functions in :rtl::math
4513	2009/08/10 14:54:47	Java UnoRuntime.queryInterface simplification
4487	2009/06/17 14:27:11	New interface com::sun::star::sheet::XSheetFilterDescriptor2
4486	2009/06/17 14:25:16	New struct com::sun::star::sheet::TableFilterField2
4485	2009/06/17 14:22:02	New constants com::sun::star::sheet::FilterOperator2
4479	2009/06/15 14:19:22	MouseSettings::NoWheelActionWithoutFocus replaced by MouseSettings::WheelBehavior
4478	2009/06/15 14:16:41	new: css.awt.MouseWheelBehaviour
4470	2009/05/28 13:35:33	com.sun.star.sdb.application.XCopyTableListener: new attribute UseHeaderLineAsColumnNames
4466	2009/05/19 13:47:11	Additional loggin UNO API.
4465	2009/05/19 12:48:39	Additional logging mechanics while setting error.
4463	2009/05/08 12:09:12	SdrObject/SvxShape property notification infrastructure
4462	2009/05/08 11:54:37	unotools/servicehelper.hxx removed in favour of comphelper/servicehelper.hxx
4460	2009/05/08 11:46:40	new: css.container.X(Enumerable)Map
4459	2009/05/08 11:42:30	OoRunner: complexlib.Assurance: +assureException
4453	2009/05/08 9:13:21	scp: NativeServicesURLPrefix for individual libraries
4442	2009/04/20 16:53:39	cppumaker: make_xxx functions for polymorphic struct types
4439	2009/04/17 11:37:55	replaced sHTML_xxx/sRTF_xxx objects with defines
4421	2009/03/17 19:18:37	new: :sfx2::Metadatable, :sfx2::DocumentMetadataAccess
4420	2009/03/17 18:53:49	new: RDF API: module css.rdf
4419	2009/03/17 18:51:50	xmloff: support for namespaces in export (and RDFa)
4418	2009/03/17 18:47:52	new: OUStringBufferAppender and intersperse
4417	2009/03/17 18:44:03	new: comphelper::getProcessComponentContext()
4401	2009/02/26 9:40:48	New KeyModifier.MOD3 introduced
4398	2009/02/24 10:23:21	jvmaccess::VirtualMachine no longer cares for context class loader
4394	2009/01/16 16:18:41	get rid of LD_LIBRARY_PATH in build environment
4392	2009/01/14 9:15:35	removed registry link support
4561	2009/09/24 18:45:58	"Volatile" slot attribute no longer supported
4560	2009/09/24 18:41:42	LoadComponentFromURL now allows to specify templates for new documents
4448	2009/05/04 10:48:05	No setting of Java context class loader in jvmaccess any more

付録2 複数のバージョンを動作させる方法

一台のコンピューターに複数のバージョンの OpenOffice.org を動作させるためのインストール方法です。

インストール

Windows では、管理者用インストールなどと呼ばれる方法でインストールします。この方法はすべての msi ベースのインストーラーで利用できます。

EXE ファイルの展開

OpenOffice.org をダウンロードします。OpenOffice.org で提供しているファイルは、EXE 形式です。ダウンロードした EXE 形式をダブルクリックして、展開します。

MSI 管理インストール

コマンドプロンプト(スタート->すべてのプログラム->アクセサリ)を起動します。

展開したフォルダに移動し、下記のコマンドを実行します。

```
> msixec /a [MSI ファイル]
```

msiexec は .msi ファイルを処理するプログラムです。/a スイッチは管理者用インストールを意味します。インストーラーが起動しますので、通常通りインストールします。



管理インストールでは、Microsoft Visual C++ ランタイムがインストールされません。インストールされていない場合には、Microsoft のサイトから入手して、別途インストールしてください。

ユーザー設定

OpenOffice.org のユーザー設定の保存場所を変更します。テキストエディタで [インストールフォルダ \program \bootstrap.ini] を開きます。

以下のエントリーを任意の場所に変更します。

```
UserInstallation=$SYSUSERCONFIG/OpenOffice.org/3
```



通常のインストールと異なり同じ Windows マシンを使用しているユーザー全員で設定ファイルを共有します。注意してください。

アンインストール

インストールフォルダおよびユーザー設定フォルダを削除します。